

平成29年度 施策評価表

作成年月日：平成30年 月 日	課・グループ名	町立病院
-----------------	---------	------

施策名	4 - (1) - ① 地域医療の確保（診療体制の確保）
-----	------------------------------

1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(1) 充実した医療環境の確立	①地域医療の確保（診療体制の確保）

①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ● 自治体病院等広域化・連携構想に基づき効率的な地域医療体制を図るため、札幌圏域の医療機関を中心に病院相互の連携強化と機能分担を進め、また診療体制を確保するための医師派遣や地域医療が抱える諸課題を解決するために近隣医療機関との連携・協力体制を推進します。 ● 町外医療機関、特に江別市立病院との医療連携により医師の派遣や入院・外来患者数の増加や職員の資質向上の研修会・学習会を推進します。また、今後も医科大学との連携を図り救急医療体制を確保します。 ● 新たな病院改革プランに基づき病院事業経営の改革に取り組みます。 ● 一次医療機関として救急医療も含めた医療機能を維持するため、医師をはじめ医療スタッフの確保に努めます。 ● 町内の児童生徒の各種健診と手軽に受けられる健診事業をはじめとした予防医療を行うとともに、保健・福祉・国保等関係機関と連携し、町民の健診や在宅医療の役割を担います。 ● 地域医療連携室を中心に他の医療機関との適切な役割分担と連携を充実させるため、的確で迅速な情報交換等や医療相談等を進めるとともにサービス調整会議等による保健福祉関係機関との連携を進めます。 		
--------------	--	--	--

②施策の現状と課題	現 状	課 題
	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の医療機関は、国民健康保険町立南幌病院と民間医療法人の医院、歯科医院等があります。 ● 札幌圏に接し、比較的近距离に総合病院、専門病院があるため、入院・外来ともに町内医療機関での受診者が減少傾向となっています。 ● 診療科目は、町立病院では内科・外科・小児科（現在休診中）・眼科があり、民間医療法人の医院では内科、整形外科、リハビリテーション科、歯科があります。 ● 医療機関の経営は、医療制度の改革や医療環境の変化などにより年々厳しくなっており、医師の確保についても困難な状況にあります。 ● 札幌圏域自治体病院等広域化・連携構想検討会議江別地区部会の構成員として、行動計画により協力・連携を進めるとともに、江別市立病院・町立南幌病院医療連携会議により医療連携を進めています。 ● 町立病院の常勤医師は、江別市立病院総合内科から派遣を受けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療機関の確保については、江別市立病院等二次医療機関との連携体制や医科大学との連携を強化し、救急医療体制を含めた広域医療や診療体制の確保が必要です。 ● 地域住民が安心して暮らせる医療環境を継続して提供するため、病院での医療の他、在宅医療などを進める病院体制の改革や患者ニーズに対応するための職員の資質向上を図ることが必要です。 ● 町立病院は、国民健康保険直診病院として、また一次医療機関としての機能の充実と予防医療・在宅診療の促進に取り組むことが必要です。 ● 地域において必要な医療提供体制の確保を図り、町立病院が安定した経営の下で役割を継続的に担っていくことができるよう、地域医療構想を踏まえて策定した「新・国民健康保険町立南幌病院改革プラン」の取り組みを進めることが必要です。

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化
	地域の医療機関として、必要な医療機能が発揮されているか、また、患者や家族のニーズに対応した医療サービスが提供されているかなど、病院の経営診断において基本的な数値となるための指標として設定している。	成果指標（総合計画・施策評価）	○ 可 能
		A 町立病院 入院患者数（延べ）	不可能
		B 町立病院 外来患者数（延べ）	未計測
		代替指標 ※成果指標がない場合	指標の設定
		可 能	
		不可能	

※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。

②指標データ	単位	過年度実績			評価年度 H29	目標年度 H33	達成率増減の理由
		H26	H27	H28			
A目標	人	16,790	16,425	17,012	14,235	14,600	江別市立病院との医療連携による入院患者の紹介をはじめとする地域医療連携室の機能が発揮され、紹介・逆紹介の増加により、入院患者が増加した。
A実績	人	14,445	12,292	13,062	14,804		
A達成率	%	86.0	74.8	76.8	104.0%		
B目標	人	20,580	21,168	23,088	15,860	15,860	内科医師2名体制の定着により、患者が安心して受診できる体制が整ったことにより、外来患者がほぼ目標どおりの受診数となった。
B実績	人	18,289	17,998	15,566	15,262		
B達成率	%	88.9	85.0	67.4	96.2%		

評価視点	評価結果	理由、課題・問題点
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)	施策の達成度 B 内科医師2名体制の定着により、入院・外来ともほぼ目標どおりの数字となった。引き続き医師が定着し安定した医療体制を確保することが重要であり、住民が安心して受診できる医療機関として取り組んでいく必要がある。
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)	
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)	
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)	

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H29実績	H30予算	
					実績								
1													
2													
3													

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H29事業費	0
H30予算	0

②H30に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の妥当性
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号					平成30年度以降 の予算の方向性
			A					拡大
			B					維持
			C					維持
			D					縮小